

## 横浜市立図書館のあり方の検討状況について

### 1 基本的な考え方（目的・趣旨）

民間活力の導入などによる管理運営手法の見直しにより、効率的な図書館運営を行うと共に、サービス水準の向上を図ります。

### 2 現状

- (1) 「横浜市立図書館のあり方懇談会」（平成19年8月）の提言を受けた「横浜市立図書館の見直し計画（案）」については、平成20年4月8日の教育委員会において、教育委員会として十分な検討と議論が必要との指摘を受けています。
- (2) 平成19年11月21日の都市経営執行会議を経て、「局案の効率的な執行体制を確立していく方向性」については了承を得ていますが、具体的な管理運営手法等については、関係局・課とも今後、調整していく必要があります。
- (3) 「横浜市立図書館の見直し計画（案）」に関しては、都市経営執行会議議事録などを基に指定管理者制度の導入に慎重な対応を求める一部の市民や団体から市会への陳情、教育委員会への請願書の提出が行われています。

### 3 参考：横浜市立図書館の見直し計画（案）について

#### (1) 地域中核館によるブロック管理

地域図書館のうち4館を方面別に「地域中核館」と位置づけ、地域図書館を管理する。

#### (2) 民力を活用した管理運営手法の導入

1ブロックの地域図書館（3～4館）に指定管理者制度を導入、他の3ブロックの地域図書館は順次、窓口業務等の委託化を推進し、管理運営手法を比較検証する。

#### (3) 司書職員の専門的業務への専任化

貸出業務等は民間事業者に委ね、司書は選書、レファレンス、学校への支援、地域支援など専門的な業務に専念する。

### 4 今後のすすめ方について

「横浜市立図書館の見直し計画（案）」については、平成19年11月21日の第28回執行会議において、効率的な執行体制を確立していく方向性については了承されていますが、今後、課題等の再整理を行い、これからの図書館に求められるサービスのあり方や管理運営方法を検討してまいります。

### 5 添付資料

- (1) 横浜市立図書館のあり方懇談会 報告書の概要
- (2) 冊子「横浜市立図書館のあり方懇談会報告書」

# 横浜市立図書館のあり方懇談会 報告書の概要

## I 報告書の概要と提言

### 1 報告書の概要

#### (1) 横浜市立図書館のあり方

国際文化都市横浜の市民力との協働を前提に、下記の2、3で述べるサービスと管理運営を中心にして、自助・自立の精神に則った横浜型モデルの図書館づくりを目指します。

#### (2) これからの図書館サービス

横浜市立図書館は、地域情報拠点化と課題解決機能を強化しつつ、地域図書館については、地域の特色を活かした個性ある図書館づくりを目指します。

具体的な活動として、子ども読書活動の推進、学校や学校図書館との連携・支援、多文化サービスなどに努めるとともに、図書館サービスをきめ細かく展開するためにIT技術の活用、高度な付加的サービスに対する受益者負担の導入、既存施設との連携をすすめます。

#### (3) 効率的な管理運営

市民・企業・各種団体などが持つ創造力や実行力（＝民力）を活用した運営体制に転換することを基本とし、その導入範囲や具体的手法については、比較考量が必要です。

高度な専門性を備えた司書力を活かした業務体制を確立し、機械化・省力化などにより経営の効率化を推進します。

#### (4) 市民との協働

多様で豊富な人材と活発な市民活動（＝市民力）を背景とし、図書館における市民との協働を一層推進するため、ボランティアやサポーターとの連携を深めます。図書館への市民参画への機会が求められており、図書館長の諮問機関としての「図書館協議会」に限定することなく、市民代表による「図書館市民会議」など市民意見が反映、実現される仕組みづくりをすすめます。また、寄付文化を育て、寄付活動を通して、市民自らが図書館の運営に参画しているという意識を持つことも必要です。



## 2 提言

### (1) これからの図書館サービス

- ①市民の課題解決を支援する相談・情報提供機能の強化を図る。
- ②図書館を地域社会と連携し、地域固有の有用情報をストックし、コーディネートできる「地域情報拠点」として機能させることが必要である。
- ③地域図書館ごとの特色を活かし個性ある地域図書館づくりを推進する必要がある。
- ④IT技術を活用して利用者のさまざまな要求に応じていく必要がある。
- ⑤図書館の持つ資源を活用して、子どもの読書活動を推進し、学校や学校図書館との連携・支援を行うことが必要である。
- ⑥市民への多文化サービスを充実させ、国際都市横浜の形成を支援することが必要である。
- ⑦図書館サービスを基礎的なものと付加的なものに分け、付加的サービスについては受益者負担の導入についての検討が必要である。
- ⑧地区センターなど関連施設との連携をすすめ、市民の図書ニーズに対応した効果的なサービス提供を検討すべきである。

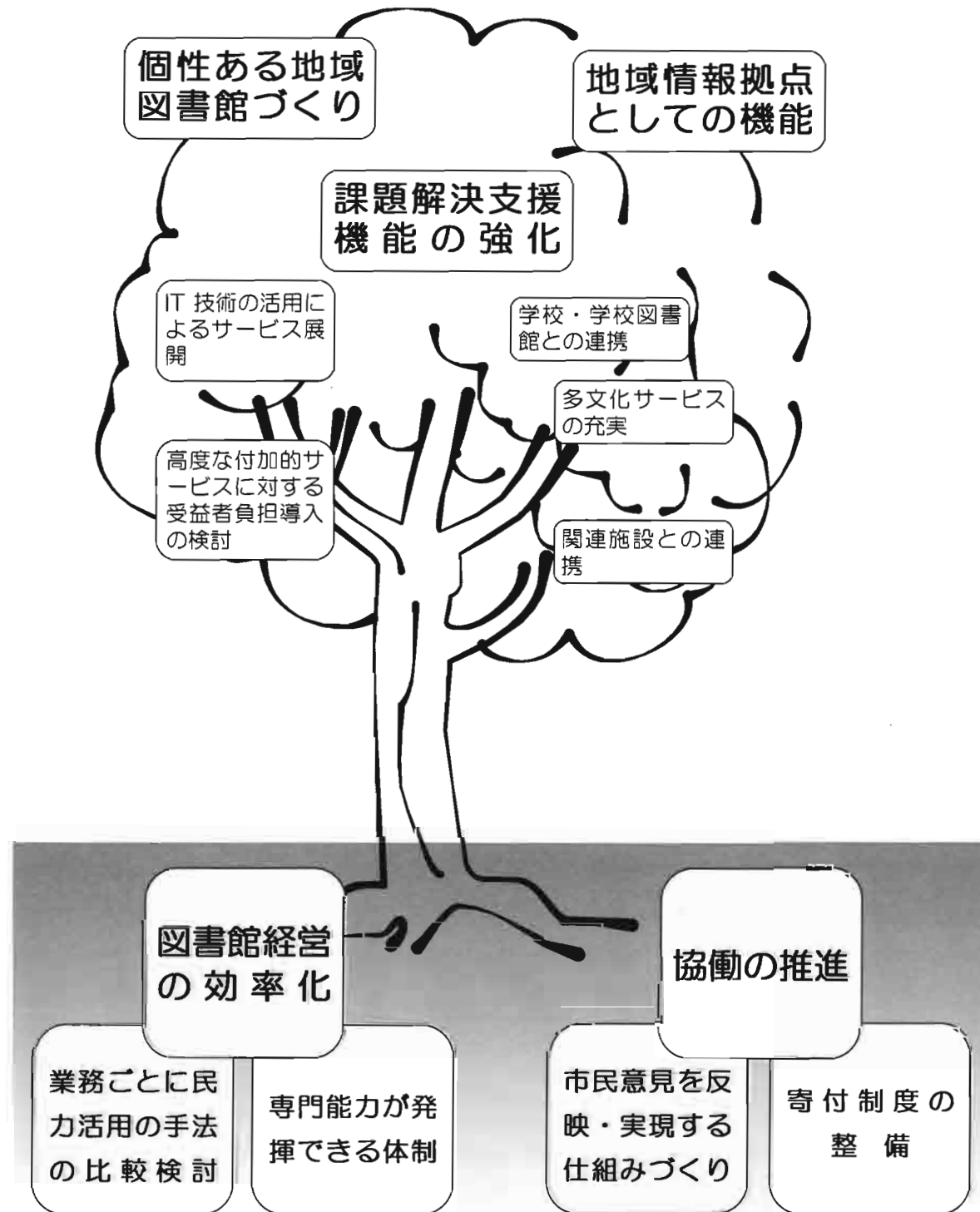
### (2) 効率的な管理運営

- ⑨限られた人的資源の有効活用のためには、司書の専門性発揮に留意した業務体制を確立する必要がある。
- ⑩現行の運営体制を転換し、市民・企業・各種団体などが持つ創造力や実行力（＝民力）を活用した手法の導入が必要である。業務のどの部分に導入するか、その具体的手法などについては、さらに比較考量が必要である。
- ⑪機械化による人件費削減や、地域図書館を方面別にグループ化する管理体制への変更などさまざまな手法により、経営の効率化に努める必要がある。

### (3) 市民との協働

- ⑫ボランティアの受け入れやサポーターとの連携を深め、市民との協働を一層推進していく必要がある。
- ⑬市民自らが図書館の運営に参画しているという意識を持つためにも、寄付文化を育て、寄付の受け皿作りなどの仕組みを整備する必要がある。
- ⑭図書館への市民参画の機会が求められており、図書館長の諮問機関としての「図書館協議会」に限定することなく、市民代表による「図書館市民会議」など市民意見が反映、実現される仕組みづくりが必要である。

# 市民力と創造力を活かした横浜型モデル



## II 懇談会の概要

### 1 設置目的

将来の図書館像を見据えたサービスの実現と経営の効率化を中心に、有識者等から意見を聴取します。特に、経営主体の選択(業務委託の拡充や指定管理者制度の導入など)を視野に、経営効率化の道筋と、社会教育施設としてのこれからの図書館像について検討します。

### 2 主な検討テーマ

- (1) 図書館サービスの重点方向  
「これからの図書館サービス」として想定されるサービスについて検討
- (2) 効率的な管理運営  
サービスの向上、経費の圧縮、業務の効率化といった視点から、最適な運営方法を検討
- (3) 図書館の将来像  
「市民力」と「創造力」を支えるインフラとして機能する図書館像を検討

### 3 委員

氏名	職業	選考区分	備考
伊藤 紀久子	「つづき図書館ファン倶楽部」代表	市民代表	
井堀 利宏	東京大学大学院経済学研究科教授	学識経験者	副座長
金指 真理子	(株)金明堂専務取締役	経済関係者	
金澤 和子	市民グループ「子どもと本」代表	市民代表	
マリ・クリスティーン	異文化コミュニケーター	学識経験者	
小泉 哲雄	市民活力推進局区政支援部長	行政関係者	
小宮 真弓	横浜市立大綱小学校校長	教育関係者	平成19年4月から
高山 正也	国立公文書館理事	学識経験者	座長
寺田 芳朗	建築家	学識経験者	
廣瀬 通孝	東京大学工学部教授	学識経験者	
吉岡 日三雄	横浜市立一本松小学校校長	教育関係者	平成19年3月まで
依田 和子	「よこはまライブラリーフレンド」代表	市民代表	

### 4 開催日程及び内容

回数	開催日	会場	主な懇談内容
第1回	平成18年10月17日	横浜中央図書館	横浜市立図書館の現状と課題
第2回	平成18年11月21日	磯子区役所	図書館サービスの重点方向
第3回	平成18年12月19日	横浜中央図書館	効率的な管理運営
第4回	平成19年2月20日	横浜中央図書館	市民との協働
第5回	平成19年3月12日	横浜中央図書館	図書館の将来像
第6回	平成19年4月24日	横浜中央図書館	懇談会中間とりまとめについて
第7回	平成19年5月15日	横浜中央図書館	懇談会中間とりまとめについて
第8回	平成19年6月29日	横浜中央図書館	最終報告書案について